

「顕彰」から「創生」へ――

夢が行き交うまちIMABARIを目指して

「STAGE CHANGE」をスローガンに、新たな今治市政の一步を踏み出して1年。この1年は、今治市にとって試練の年でした。

「令和7年今治市林野火災」では、災害が暮らしの根幹を揺るがす脅威であることを改めて認識し、二度と大規模災害を起こさないために「備えること」「意識すること」の重要性を痛感しました。夏には、JICAアフリカホームタウン制度で本市がモザンビークのホームタウンに認定されたことをきっかけに、大きな混乱が生まれました。正しい情報を迅速に市民の皆さまに伝える行政の責任を胸に刻んだ出来事でした。

一方で、世界的建築家・丹下健三先生の顕彰事業の集大成として、「世界のTANGE特別展」を開催し、新しい今治のまちづくりに向けて「大きな一歩」を記すことができました。6月に策定した中心市街地ランドデザインによって、今治市が目指すまちのイメージを市民の皆さまと共有することができ、ネウボラ施設など、未来を見据え

た中心市街地の再生が始まっています。「顕彰から創生」へ、まちづくりのフェーズが大きく動いた「新しいまちづくり元年」ともいうべき節目の年であったと思います。

今、今治市は確実に変わり始めています。「今治に住みたい」「今治で挑戦したい」という声が多く寄せられ、国内外での存在感は大きく高まっています。この追い風をしっかりと捉え、「脱・衰退」の実現を目指して、今治を「瀬戸内の世界都市」へと押し上げていかなければなりません。

新たに策定した第3次今治市総合計画では、10年後の将来像を「瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまちIMABARI～みんなのふるさと、つむぐ未来～」と定め、その姿をフューチャーマップとして描いています。この未来予想図の中に、市民の皆さまの想いを詰め込んで、「市民が真ん中」の“夢が行き交うまち”を共につくりあげましょう。

今治市長 徳永 繁樹

